

# 接続語 レベル3

日 前  
月 名

■ 次の文章の空欄(1)～(5)にあてはまる言葉をそれぞれ次のア～オから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

昔の日本人は家族や村などの共同体から望まれるような生き方をしなければならなかった。(1) **ウ**、日本文学では、しばしば共同体と個人の間で苦悩する主人公が登場し、また、読者の共感を誘った。(2) **オ**、現代に生きる我々は、自分で自分の生き方を決めなければならない時代を生きている。これは一見気楽に見えるようで、(3) **イ** 不安なものである。(4) **エ** 自由であることへの不安である。(5) **ア**、情報化社会においては、どう生きるべきかの選択肢はますます広がっていくばかりである。現代人の生きづらさの原因はそこにもあるのだ。

- ア その上 イ むしろ ウ だからこそ エ いわば オ ところが  
 (1) ウ (原因から結果) (2) オ (対立する内容が続く) (3) イ (どちらかという)  
 (4) エ (言い換える) (5) ア (さらに加える)

■ 次の文章の空欄(6)～(10)にあてはまる言葉をそれぞれ次のカ～ケから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

地球上には様々な生物が生きています。(6) **ク**、トラやライオン、キリンやゾウ、米や麦、マグロやカブトムシや、バクテリアなど、挙げていくと切りがありません。これらの生物たちは、ただ一つの種だけで生きていくことは困難です。(7) **カ**、生物はお互いに関係しあっていくことで自身の生命を保っているからです。(8) **キ**、地球上で多くの生命が関係しあって生きていることを「生物多様性」と言います。(9) **コ**、人間はこの「生物多様性」の中に含まれるのでしょうか。もちろん人間も生物の一つです。(10) **ケ** 人間も他の生物と関わりあうことなしに生きていくことはできません。だからこそ、人間も、他の多くの生命と共に、この地球を分けあいながら生きている存在であることを忘れてはいけません。

- カ なぜなら キ このように ク 例えば ケ したがって コ ところで  
 (6) ク (例をあげる) (7) カ (理由の説明) (8) キ (それまでの内容をまとめて言う)  
 (9) コ (話題を変える) (10) ケ (原因から結果)

